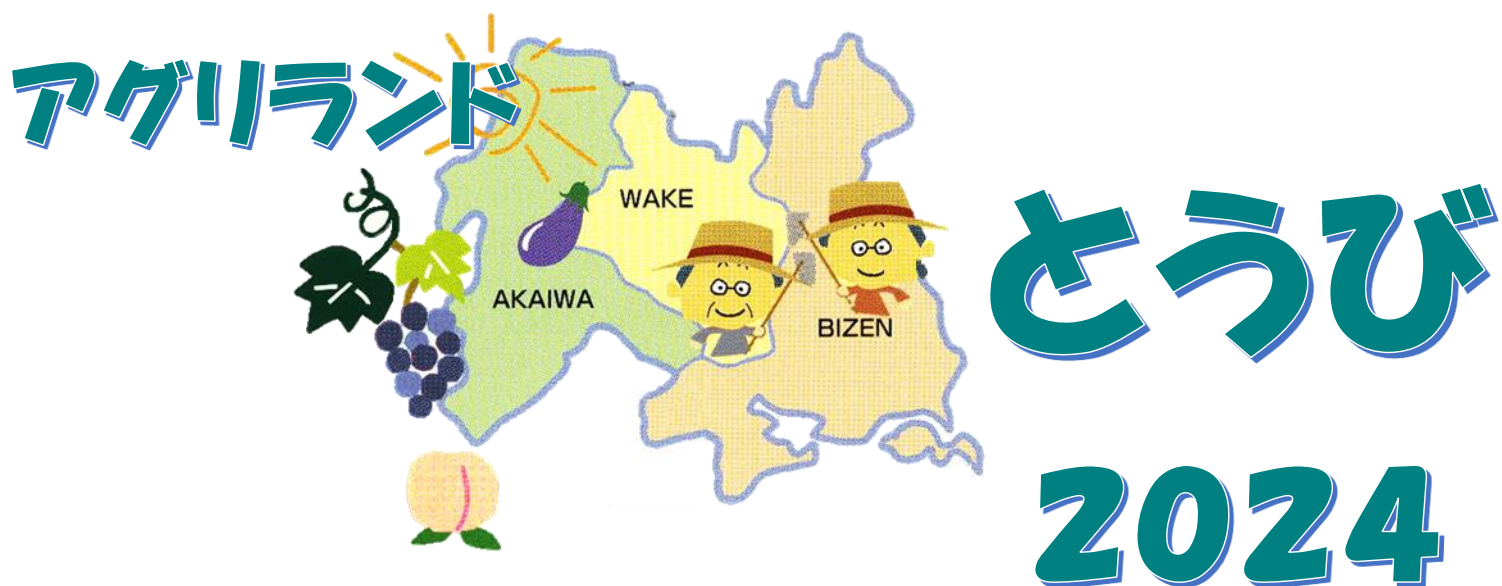


A G R I L A N D T O B I



B I Z E N W A K E A K A I W A



岡山県備前県民局農林水産事業部

東備農業普及指導センター



目 次



もも産地の発展を支援します!～白桃の担い手確保・育成と産地拡大～	1～2
次代の産地を担う農業者を育てます!～新規就農者の確保・育成～	3
水田農業研修会を開催～経営の安定に向けて～	4
持続可能な農業の推進	4
シカから稲を守れ!～既存柵とセンサーカメラを利用した獣害対策～	5
環境にやさしい夏秋なす栽培の推進	6
クラウドを活用した技術情報発信	6
ぶどう「ピオーネ」の着色向上対策	7
認定農業者の経営改善を支援	8
6次産業化事業者のスキルアップ支援!	9
しきみを低木にして管理を楽に!	9
牛用接触冷感マフラーを実証～モ～っとクールに夏を過ごそう～	10
各種表彰・受賞者の紹介～皆さん おめでとうございます～	11

表紙写真 左上:和気町就農準備講座
左下:親子式草刈機の実演

右上:ぶどうの新梢長調査
左上:もものせん定講習会

もも産地の発展を支援します！

～白桃の担い手確保・育成と産地拡大～

JA晴れの国岡山岡山県モモ部会では、新規就農者の確保、就農初期者の早期経営安定、安定生産技術の普及、産地規模の拡大、個別経営体の経営安定等の課題解決に取り組んでいます。ここでは、普及指導センターが部会や関係機関と連携して進めている課題の一部について紹介します。

○就農初期者の早期経営安定

普及指導センター職員とJAの営農指導員が講師となり、ももの栽培初心者向けの講座を開催しています。通常のベテラン生産者向けの栽培講習会では説明しきれない、ももの基礎生理や細かな作業手順などが学べ、今年は19人が受講しています。



受講生に選果場の仕組みを説明

○安定生産技術の普及

・オンライン情報提供

ももの安定生産のためには、その年の気象や病害虫の発生状況等にあわせた適切な管理が求められます。しかし、講習会だけではその時々で起きている事柄にあわせてどのような管理をすればよいか迅速に情報を伝えることができませんでした。

そこで、普及指導センターはクラウド（インターネット上の文書ファイル置き場）に今年のももの栽培に役立つ情報を置き、部会員全員がスマートフォン等で見るように周知しました。

この情報については、部会員から「栽培の参考になる」と好評で、次年度以降も内容を充実させて継続していく予定です。



情報提供の画面

・「白皇」の安定生産に向けた取組

当部会は岡山県育成品種「白皇」の県下最大の産地となっています。しかし、「白皇」は食味に優れるものの生理障害の発生が多く、安定生産が難しいのが課題です。

そこで、農業研究所の最新の研究成果を交えた研修会を年2回実施し、栽培管理のポイントを部会員に周知しています。また、「白皇」に適する掛け袋の検討や、樹園地条件を調査するなど、安定生産に向けた技術の調査・普及を進めています。



「白皇」研修会（R6. 4. 23）

・音響振動装置「ゆびけん」の開発支援

岡山県はももの収穫時期を栽培初心者でも簡単に判断できる音響振動装置（果実に振動を与えて果実硬度を非破壊で測定する装置）の開発を大学等と連携して進めています。

今年は「ゆびけん」で予測した収穫日で実際に「清水白桃」を収穫し、適正な熟度で収穫できるかどうか確認しました。その結果、過熟や未熟果はほとんど見られず、期待通りの熟度で収穫でき、「ゆびけん」の予測精度の高さが確認できました。

音響振動装置は次年度には市販化される予定です。普及指導センターは、引き続きスマート農業機器の技術開発や普及を支援していきます。



「ゆびけん」による果実の熟度調査

○産地規模の拡大

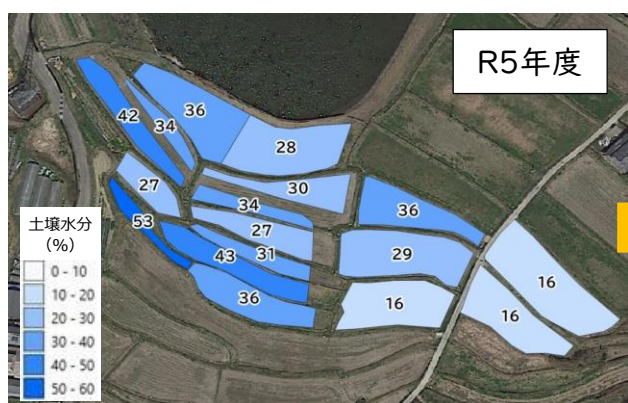
ももの生産供給体制強化のため、部会と関係機関は令和3年度に事業推進チームを結成し、新団地の整備を進めています。

赤磐市斗有地区に水田転換により整備したもも団地で、ほ場の一部で排水の問題が発生したことを受けて、昨年度にはほ場の水分調査と排水不良か所の暗きよの施工を実施しました。本年度に再度水分調査を行ったところ、暗きよを施工した周囲のほ場の排水改善が認められました。

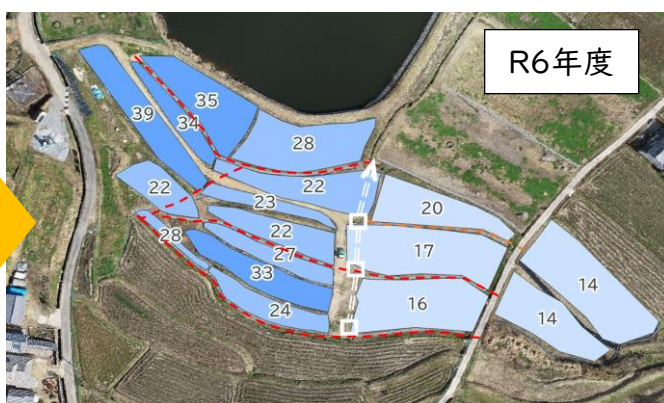
事業推進チームはこのもも団地での整備事業の経験を活かして、今後他地区でのもも園地造成を進めていきます。



事業推進チーム会議



暗きよ施工前 (R5. 7. 26)



暗きよ施工後 (R6. 8. 2)

※青色が濃いほど、数字が大きいほど土壌水分が多い（排水不良）であることを示している
 ※右図の赤い破線は昨年度に施工した暗きよの位置を示している。

次代の産地を担う農業者を育てます！

～新規就農者の確保・育成～

東備地域は、もも、ぶどう、なす等、特色のある農産物の産地があります。新規就農者の掘り起こしに向け、三徳園や大阪で行われた就農相談会への参加や地域の産地を訪問する就農オリエンテーション等を開催しています。

産地、市町、JAの関係機関と一体となって、就農希望者に東備地域の産地の魅力をPRし、新規就農者の確保に努めています。



晴れの国岡山就農セミナー＆
相談会（三徳園）



ぶどう管理作業中の研修生



就農オリエンテーション



農業実務研修修了式

本年度は就農希望者のうち3人（もも、ぶどう、なす各1人）が、技術を習得する研修を修了し新たに就農しました。

普及指導センターは、就農希望者が産地でスムーズに就農できるように受入体制の充実強化を図りながら新規就農者の確保に努めるとともに、引き続き、技術習得や経営計画作成、就農後の早期経営安定に向けて支援していきます。

水田農業研修会を開催

～経営の安定に向けて～

水稻を経営の主体とする認定農業者や集落営農組織関係者を対象に、経営力強化を目的として東備地域水田農業研修会を2回開催しました。

東備地域の水田は傾斜のある畦畔や法面が多く管理作業の負担が大きいことから、1回目は畦畔管理作業を安全に軽労化する2種類の新型草刈機の実演をしました。その他にも、普及指導センターから水稻の技術情報、農機メーカーから農作業安全、加えてJA全農岡山県本部から米穀情勢を情報提供しました。

2回目は、普及指導センターから薬剤による畦畔管理の省力化技術などの実証結果の説明やメーカーから農作業用を軽労化するアシストスーツを紹介し幅広い情報提供を行いました。

普及指導センターは、今後も研修会等を通じて、水田農業の経営力強化に向けて役立つ情報を提供していきます。



リモコン除草機の実演



アシストスーツの試着

持続可能な農業の推進

和気町は、農業・農村の維持発展と地域の活力向上を目指し、令和6年4月23日に県下初の「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

本年度、和気町有機農業産地づくり推進協議会が有機農業の技術習得に向けた研修会の開催や学校給食への有機米利用など地域ぐるみで取り組んでいます。

普及指導センターは協議会のメンバーとして、有機農業に係る技術の普及を支援します。



田植祭り等で有機農業をPR

シカから稲を守れ！

～既存柵とセンサーカメラを利用した獣害対策～

○取組の経緯

和気町の塩田営農組合では昨年度、獣による食害により水稻が減収し問題となっていました。

そこで本年度はセンサーカメラを設置して、出没獣種や被害、侵入場所を確認し、既存の電気柵にネット柵を組み合わせた緊急的な対策を実施し、効果を確認しました。

○対策の効果と被害状況

ネット柵でシカの侵入を一時的に防止することが出来たものの、穴を開けたり、下をくぐるなどして再び侵入がありました。多いときには3頭のシカの侵入を確認でき、田植後1か月の食害に加え、収穫前のヌタ打ち（泥で体を洗う行動）で稲の倒伏被害が見られました。ヌタ場の近くから侵入する様子がカメラ撮影され、新たな侵入経路がわかりました。



センサーカメラの設置



ヌタ打ちによる被害



ネットでシカの侵入を防止



侵入したオスジカ(3頭)

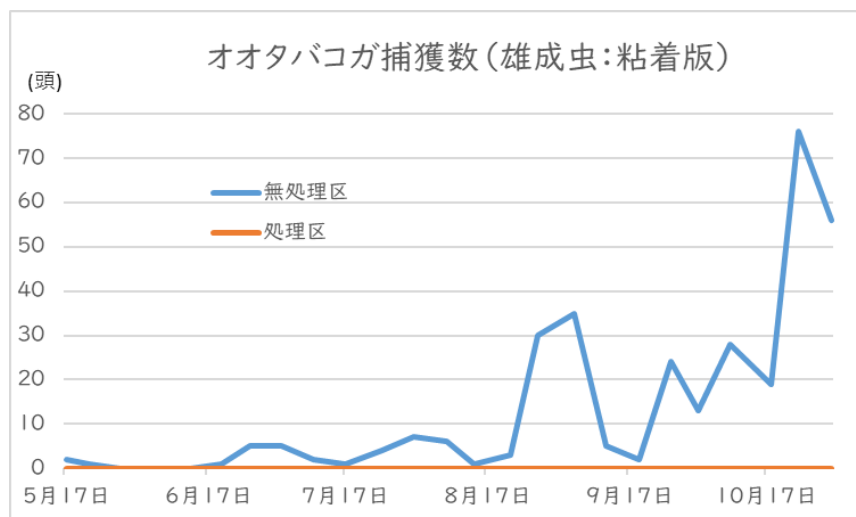
○次年度に向けての取組

普及指導センターは、収穫後に営農組合役員にシカの出没状況、対策のポイントを提案しました。営農組合はこれを受けて、次年度に被害の軽減に向けて適切な対策を実施する予定です。

環境にやさしい夏秋なす栽培の推進

夏秋なす栽培では、害虫のオオタバコガの発生が毎年問題になっています。その対策として黄色防蛾灯とフェロモン剤の組み合わせによる防除効果について検証を行いました。その調査の結果、防蛾灯の光とフェロモン剤でオオタバコガの行動が抑制され、飛来・発生数が減少しました。

今後、管内に広く周知していきます。



黄色防蛾灯とフェロモン剤

クラウドを活用した技術情報発信

東備地域の白ねぎ栽培は、平成18年頃に和気町や旧熊山町で水田転作作物として導入されて以降、栽培面積の拡大や組織化が進み、現在では県下有数の産地となっています。

しかし、近年の極端な気象条件の影響により、軟腐病やネギアザミウマ等の病害虫が発生し、収量・品質が低下しています。

そこで、普及指導センターは、病害虫の発生状況や対策等の技術情報について、インターネットのクラウドを活用したタイムリーな情報発信に取り組んでいます。農業者からは、「現場ですぐに情報を確認できるので今後の栽培管理の参考になる」などの声が聞かれました。



技術情報を説明する普及指導員

kViewer			
10823_技術情報配信			
日付	タイトル	内容	添付ファイル
2024-10-10	被害残量を除去しよう	白ねぎが欠株になった箇所の残量には、白腐病の菌核が付着していることがあり、次の作付に悪影響を及ぼす。土寄せをする前に、残量をよく観察し、菌核が付着している場合は、ほ場外へ除去しよう。	
2024-10-10	ネギハモグリバエB系統の被害が発生しています	ネギハモグリバエB系統の被害は、従来のネギハモグリバエと異なり、不規則な被害発生傾向を示し、かき取りなどの被害発生が確認されています。被害が白化します。(写真) 防除は、ネギハモグリバエやハモグリバエに感染したネギハモグリバエを駆除することにより、B系統の被害を軽減しますが、B系統の卵および若齢幼虫に対して高い効果があるのクロゼンラクトとの報告もあつた。	

技術情報(農業者は2次元コードからアクセス)

ぶどう「ピオーネ」の着色向上対策

天然型アブシシン酸（S-ABA、商品名：アブサップ液剤）は、黒系ぶどうの「ピオーネ」と「巨峰」の着色を促進する農薬（植物成長調整剤）です。

昨年度に引き続き、本年度も処理の有無による果実品質を各区10房ずつ調査しました。その結果、果皮色はカラーチャート値で1高くなりましたが、そのほかの品質に違いはありませんでした（表、写真）。果皮色から見た等級は、慣行区では良（下位等級）が8/10房だったのに対し、S-ABA区では優と青秀（上位等級）が9/10と、等級が向上しました（図）。

普及指導センターでは、引き続き着色安定を目指した技術の普及に取り組みます。

表 果実品質調査（8月26日収穫）

調査区	果房重 (g)	果皮色 (ピオーネ用C.C)	糖度 (Brix %)	酸度 (pH)	食味 (1:不良～5:良)
散布区	519	6.2	19.2	3.4	2.5
慣行区	491	5.2	20.2	3.5	3.1
調査区	果肉の硬さ*1 (1:軟～5:硬)	脱粒難度*1 (1:易～5:難)	果粒の汚れ*2 (0:無～4:多)	果粉溶脱*3 (0:無～4:多)	晩腐病*4 (0:無～4:多)
散布区	5	5	0	2	0
慣行区	5	5	0	2	0

*1 硬さ、脱粒難度（1～5、このうち3まで許容範囲）

*2 汚れ（面積で判断、0:無、1:1～20%、2:21～50%、3:51～75%、4:75%超）→2以上で実用上の問題あり

*3 溶脱（面積で判断、0:無、1:1～20%、2:21～50%、3:51～75%、4:75%超）→3以上で実用上の問題あり

*4 晩腐病（発病粒率で判断、0:無、1:1～5%の果粒、2:6～20%の果粒、3:21～50%の果粒、4:51%以上の果粒）

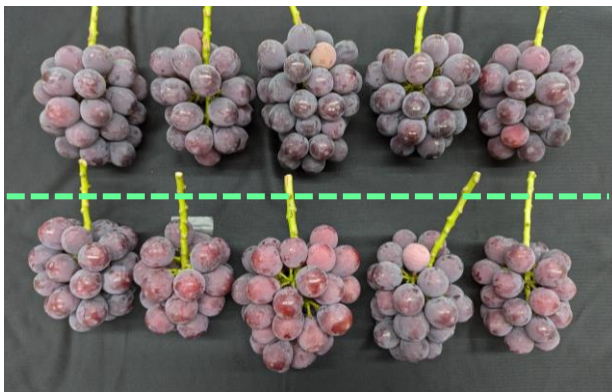


写真 収穫時の果房の状態
（上段:S-ABA区、下段:慣行区）

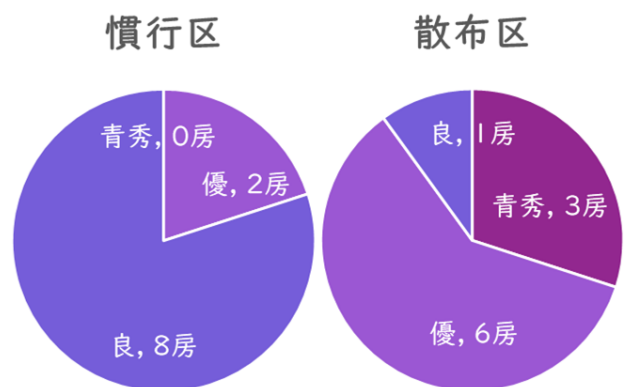


図 果皮色から見た等級別房数
（上位等級から順に青秀、優、良）

【使用にあたっての注意点】

- ・ピオーネでの着色促進効果はカラーチャート値で1～2程度とされていますが、気象条件や樹勢、着果量等によっては期待した効果が得られない場合があります。
- ・散布に合わせて袋かけを遅くする場合、簡易被覆栽培では晩腐病等の病害虫による被害が増える可能性があるため、注意が必要です。
- ・果実の成熟は通常通り進むため、着色だけではなく食味等をよく確認してから収穫するよう心掛けてください。

認定農業者の経営改善を支援

普及指導センターは、毎年、認定農業者等を対象に、経営管理、税務等を学ぶステップアップ研修会を開催しています。また、県農業経営・就農支援センターと連携して、経営研修会、個別経営相談、専門家派遣により経営改善を支援しています。

○認定農業者が受けられる主な支援措置

- ・施設・機械整備の補助事業の中には、認定農業者であることが要件となるものがあります。
- ・経営所得安定対策のうち、畑作物の直接支払交付金(ゲタ対策)と収入減少影響緩和交付金(ナラシ対策)の加入対象となります。集落営農(法人除く)、認定新規就農者も対象です。
- ・制度資金(スーパーL資金、農業近代化資金)では、施設・機械整備等に低利融資が受けられます。
- ・農地中間管理機構を活用して農業振興地域内の農用地区域内の農地を売買する場合、買い手が認定農業者等の農業の担い手であれば、売り手には譲渡所得の特別控除が適用され、買い手には不動産取得税や登録免許税の軽減があります。
- ・青色申告を行う認定農業者は、農業経営基盤強化準備金制度、農業者年金の保険料補助があります。

○普及指導センター主催の研修会

各種研修会を御案内しています。次年度も同様に計画予定ですので是非御参加ください。

<今年度の研修会>

研修会	実施日
複式簿記の基礎研修会	11月 7日
税務研修会「法人化の実務」	11月21日
パソコン簿記研修会(入門)	12月 5日
パソコン簿記研修会(決算)	12月12日
雇用・労務に関する研修会	1月22日
簿記記帳相談 (東備地域事務所)	12月16日 1月20日 2月10日



簿記研修会

○岡山県農業経営・就農支援センターの専門家派遣

法人化や経営継承等について、具体的に専門家の支援を希望される方は、普及指導センターへ御相談ください。

<支援内容の例>

	農業の法人化	経営継承	経営診断 経営改善	雇用・労務	税務・財産
中小企業診断士	○	○	○		
税理士	○	○			○
社会保険労務士	○			○	
司法書士	○				

6次産業化事業者のスキルアップ支援！

普及指導センターは、6次産業化に取り組む事業者を対象に「備前地域6次産業化ステップアップ研修会」(9/6、18)を開催しました。1回目は商談会で使える商品紹介シートの作成を通じた商品力・販売力向上、2回目はInstagram やプレスリリースを活用したPR について実習を交えて研修を行いました。

また、研修生は「おかやま秋の収穫祭 地産地消マルシェ 2024」(10/27)、「あかいわeco・いいものまるしえ×消防フェス!」(11/10)に共同出展し、SNS での告知やブラッシュアップを進めた新商品の販売を行う等、実践活動に取り組みました。

新規販路開拓できた研修生もあり、ステップアップに繋がっています。普及指導センターでは、今後も関係機関と連携し6次産業化に取り組む農業者の支援を続けていきます。



講師の指導を受けスマートフォンを操作



マルシェで新商品を販売する研修生

しきみを低木にして管理を楽に！

しきみは、仏壇やお墓に供えるため年間を通じて安定した需要があり、特に盆や彼岸、年末年始の需要は大きく、さらなる出荷が求められています。

東備地域では山林で広く栽培されていますが、その多くが高木化することで作業効率が悪くなっています。

そこで、平坦地に苗を定植したり、高木となった株を切り戻して低木にして、管理を楽にすることに取り組んでいます。毎年、栽培ほ場で研修会を開催し、切り下げ栽培のマニュアルを作成しています。興味のある方は備前広域農業普及指導センターまでご連絡ください。



切下げ前



切下げ後



1年後



2年目のせん定

実際の低木仕立て

牛用接触冷感マフラーを実証

～モ～っとクールに夏を過ごそう～

今年の夏は、記録的な猛暑でした。牛も暑いと、成牛では飼料が食べられず、妊娠しにくくなったり、子牛では成長が遅れたりするといった問題が起こります。

牛の暑熱対策の一例として、接触冷感マフラーが実用化されています。この資材は水で濡らしたり、ポケットの中に氷をいれたりして、牛の首に着けることで、冷却効果が期待されます。

9月4日に最新の接触冷感マフラー（商品名：「モ～っとクール HIBRID」（株）オオツキ）を牛に装着し、効果を検証しました。

朝9時に子牛2頭、成牛1頭に接触冷感マフラーを装着し、時間経過ごとに体表面温度を測定しました。装着30分後に子牛、成牛ともに鼻部の表面温度が装着していない牛より低くなりました。特に成牛は2時間後まで、効果が確認されました（図、写真1）。また、検証中に接触冷感マフラーを装着した子牛だけしゃがみ、リラックスしている様子が観察され、効果が実証されました（写真2）。

同日、JA晴れの国岡山主催で、和牛子牛生産者、農業高校生を対象に牛の暑熱対策について、研修会をあわせて開催しました。

研修会の参加者は、暑熱対策について、興味深く聞いていました。後日、さっそく接触冷感マフラーを試しに使った生産者もいました。

地球温暖化の影響のため、今後も夏は厳しい暑さになることが予想されます。今回の検証結果を生産現場での暑熱対策に活用していきます。

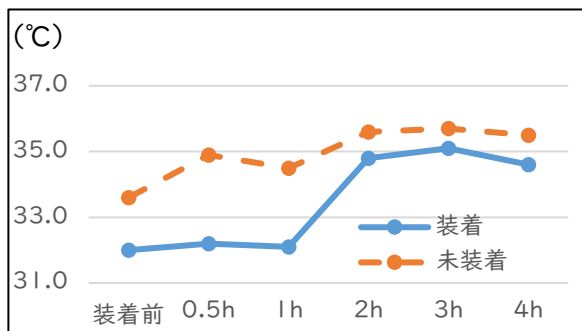


図 成牛(1頭)の表面温度(鼻部)



写真1 サーモカメラの画像(右の牛に装着)



写真2 検証中の子牛 左:接触冷感マフラー装着の牛(リラックスしている)
右:接触冷感マフラー未装着の牛

各種表彰・受賞者の紹介

～皆さん おめでとうございます～

令和6年度農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（女性の活躍）

（株）穂々笑ファーム 代表 堀内 由希子（赤磐市）

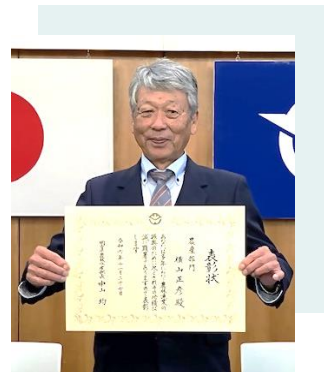
赤坂地区で酒米「雄町」の生産を中心に経営され、冬季の雇用創出のため、加工・業務用キャベツの栽培もされています。また、「雄町」の価値をより高めるためGAP認証を取得するとともに、省力と軽労化のためいち早く防除用ドローンを導入されるなど、先進的な取り組みを行っています。



（第57回）岡山県農林漁業功労者表彰岡山県農林水産部長表彰

横山 正彦（備前市）

備前市で施設ぶどうを中心とした専作経営をされています。県内でいち早くシャインマスカット栽培に取り組み、岡山県の展示場として栽培技術確立、普及へ協力をされました。また、備前ぶどう部会への新規就農者の受入では親方農家として就農支援に尽力されました。



令和6年度岡山県うまいくだもの共進会（もも共進会）

農林水産大臣賞 今井 亨（赤磐市）

全農岡山県本部運営委員会会長賞 光岡 大作（赤磐市）

うまいくだものづくり推進本部長賞

優秀賞：池本 勝義（赤磐市） 岩川 美紀（赤磐市）

皿井 洋志（赤磐市）

奨励賞：近江 勲（赤磐市） 岡野 昌彦（赤磐市）

岸本 一郎（赤磐市） 釣井 紀昌（赤磐市）

西岡 聖智（赤磐市） 本郷 祐希（赤磐市）



※敬称は省略させていただいております。

東備農業普及指導センター

〒709-0492

岡山県和気郡和気町和気487-2

(備前県民局東備地域事務所2F)

T E L :0869-92-5176(担い手・農産班)

0869-92-5177(園芸班)

F A X :0869-92-0524

e - m a i l :tobi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

担い手・農産班 :米麦などの穀類、担い手育成、集落営農について

園 芸 班 :果樹、野菜について



東備農業普及指導センターHP

備前広域農業普及指導センター

〒700-8604

岡山市北区弓之町6-1(備前県民局3F)

T E L :086-233-9845(革新農業推進班)

F A X :086-224-1187

e - m a i l :oka-fukyu@pref.okayama.lg.jp

革新農業推進班 :花き、6次産業化、農業経営や制度資金について



備前広域農業普及指導センターHP

農畜産物生産課

〒700-8604

岡山市北区弓之町6-1(備前県民局3F)

T E L :086-233-9828(畜産班)

F A X :086-232-5532

畜 産 班 :畜産について

